



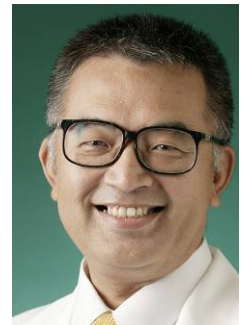
掲示板 第11号

巻頭	どうぞよろしく	1
報告①	全国の動き	2~3
報告②	高次脳支援事業関係職員研修会報告	4
	プロジェクト・班だより	5
	担当者会議報告	5
	いんば学舎勉強会報告	6
	新・地域活動支援センター紹介	7
まめ知識コーナー(11)		8
インフォメーション・編集後記		8



# どうぞよろしく

かめだ かめだ 亀田リハビリテーション病院 びょういん  
いんちょう 院長 いあい 井合 しげお 茂夫



1人の脳神経外科医師として南房総の亀田総合病院に着任し四半世紀が過ぎました。介護保険開始と共にリハビリテーション

ン医療に専門を転じ、急性期治療を完了した患者さんの自宅復帰支援を主とする回復期病棟56床の亀田リハビリテーション病院を運営するのが現在の仕事です。重度麻痺を後遺症とする患者さん達も本当に大変な想いをしておられますが、曲がりなりにも介護保険その他の社会的支援態勢が整備されて来ました。

比較的若く杖なしで歩いて通常の会話が出来るといふ高次脳機能障害の患者さん達は、先ずは周囲の誤解や無理解の「バリア」に苦しめられます。

当院入院中に可能な範囲で患者当人と家族に病態の理解を深めて貰い、より快適な家庭復帰が可能なように治療・指導・介入を行っており、一定の効果を上げています。病院という環境から離れてしまった後の支援が思うようにいかずに歯がゆい想いをしておりました。

千葉県で3番目に支援事業に参加する事が出来て、自動車運転の再開、復学、復職の支援等が「病院の枠」を越えて、種々の活動を展開できると大きな期待を持っておりま

ります。皆さんの御協力、ご助言を頂き有意義な活動を展開したいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

## 報告1

■平成 22 年度「第 1 回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会」及び厚生労働科学研究費「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究第 1 回全体会議」の報告

日 時 平成 22 年 6 月 30 日

場 所 国立障害者リハビリテーションセンター

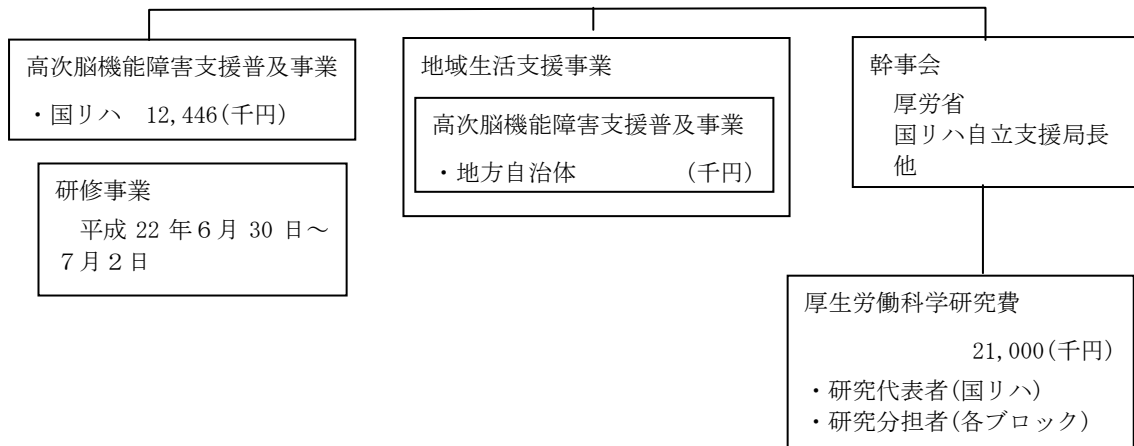
全国の  
動き

45 の都道府県から出席がありました。本年 6 月 24 日現在で、すべての都道府県に支援拠点機関が設置され、支援拠点を持ちながら本事業が展開される基盤が整備したということです。モデル事業開始後 10 年目にして全国に支援拠点機関を持ちながらの事業整備がされることは、他の事業から見ると驚異的な速度で本事業が進められたことが分かります。

厚労省の社会・援護局企画課長補佐の高城氏からは、国の段階で高次脳機能障害支援普及事業がどうなっていくかは、自立支援法との絡みもあり長期的な予測は困難であるが、平成 25 年 8 月をメドに、自立支援に関する各種政策を障がい者制度改革推進会議で現在検討中との報告がありました。

また、厚労省社会・援護局障害保健副支部長名の通知(平成 19 年 5 月 25 日付)において、高次脳機能障害支援普及事業の推進のために、都道府県実施分、国立障害者リハビリテーションセンター実施分の要綱が定められました。事業展開イメージ図が提示されているので、以下に再掲します。

### 1. 高次脳機能障害支援普及事業と関連事業



#### 高次脳機能障害支援普及事業

##### 自治体分

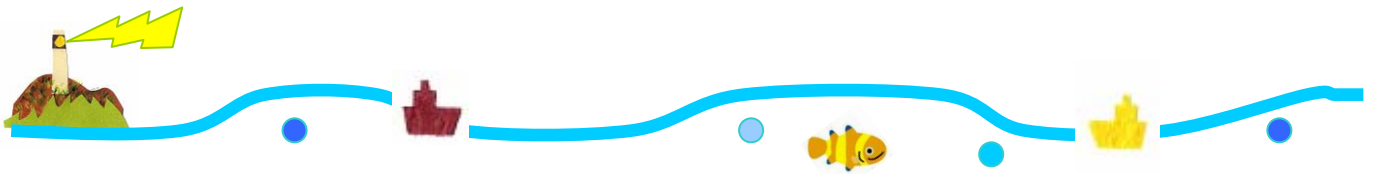
- 1) 都道府県ごとに支援拠点機関の設置と支援コーディネーターの配置
- 2) 都道府県ごとに研修事業の実施

##### 国リハ分

- 1) 自立支援局(旧更生訓練所)と病院の活動の総括開始
- 2) 研究所の情報収集・提供活動
- 3) 連絡協議会・支援コーディネーター全国会議・シンポジウムの開催

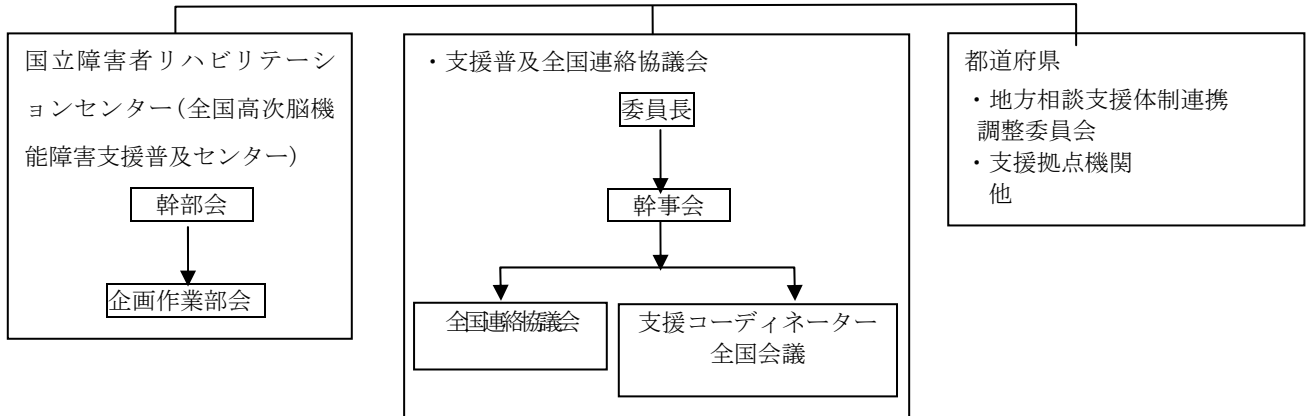
##### 厚生労働科学研究事業

- 1) ブロック内の都道府県ごとの地域支援ネットワーク構築
- 2) 青少年期高次脳機能障害者の就学(千葉リハからの全国調査)
- 3) 認知リハビリテーション技法の評価(国リハへの登録事業)

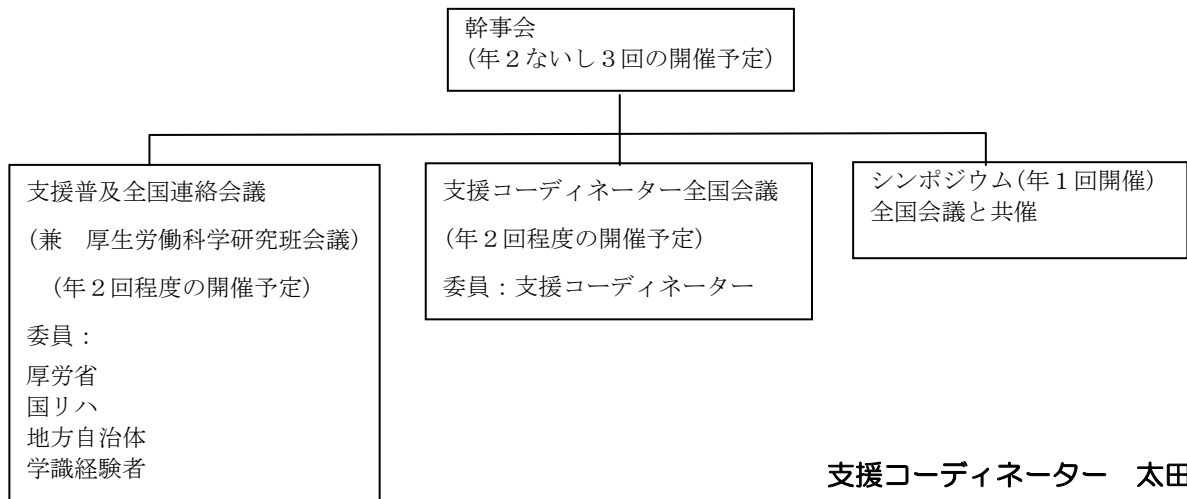


2. 高次脳機能障害支援普及事業  
連絡協議会・委員会等配置図

支援普及全国連絡協議会事務局：国リハ病院維持管理課



3. 支援普及全国連絡協議会及び支援コーディネーター全国会議構成



支援コーディネーター 太田

■第1回高次脳機能障害支援コーディネーター  
全国会議の報告

**会場** 国立障害者リハビリテーションセンター  
**日時** 平成22年6月29日(火)

千葉からは当センターの他、県の地域支援拠点機関となる旭神経内科リハビリテーション病院、亀田リハビリテーション病院からも参加されました。今回の内容は、全体を通して小児に焦点を当てたプログラムとなっており、千葉リハの太田コーディネーターが中心となって実施されました。

**内容**

1. 「小児高次脳機能障害調査」の実施について
2. 支援ネットワーク構築の取組の紹介
  - (a) 「大分諏訪の森病院」
  - (b) 「島根県立心と体の相談センター」
  - (c) 「長野県総合リハビリテーションセンター」
 の3機関からそれぞれ発表。
3. グループ討論会(小児の事例を取り上げている事例検討によるグループワーク)でした。

小児に対するアプローチは各支援コーディネーターが課題として取り上げられており、今後も全国的に力を入れていく部門のひとつだと思います。千葉県はモデル事業から小児の高次脳機能障害に取組ませていただいております。今回の「小児高次脳機能障害調査」は千葉リハからの発信による事業です。

年2回開催される全国支援コーディネーター会議ですが、他都道府県の支援コーディネーターとこのような場で会うと、スキルアップの面でも支援コーディネーター同士の情報交換や研修等が継続して行われていくことは必要であると感じます。

この会議や連絡協議会をはじめとした全国的な機会を有効に活用して、コーディネーター間の交流を深めながら、この事業に携わっていかうと思えます



## ■平成22年度

## ■高次脳機能障害支援事業関係職員研修会報告

平成22年6月30日～7月2日まで国立障害者リハビリテーションセンターにおいて右記の研修会が開催されました。

この研修会は毎年開催されており、「高次脳機能障害者の診断・評価・リハビリテーション支援など関連する諸問題について、都道府県・指定都市・中核市・における行政担当者ならびに関係機関の担当者（病院の医師及関係する職種並びに福祉施設の担当者等）が必要な知識と技術を習得すること」を目的としています。

三日間に渡る研修ですが全国から182名の参加者が集まりました。参加職種としては市町村福祉課職員、支援拠点機関の病院の医師・セラピスト、保健所職員が多いように伺われました。当センターからはPT、Ns、更生園支援員、SWの4名が参加させていただきました。

内容については障害者自立支援法と高次脳機能障害、高次脳機能障害支援普及事業についてといった行政的な説明、医学的リハビリテーション、高次脳機能障害の精神症状、心理療法といった医学・リハビリテーション内容、生活訓練・職能訓練のあり方、就学支援などの社会復帰支援、高次脳機能障害地域支援ネットワークと基本的な内容から実践的な内容までほぼ全領域をカバーする内容になっています。しかしこうしてみると生活支援についての講義がないことに気付かれます。利用機関が多岐に渡っていることや、まだまだ手探りで支援を展開しているのでしょうか。

平成13年に10か所の拠点機関でスタートしたモデル事業ですが、支援普及事業となり平成22年6月末日で全都道府県に支援拠点機関が設置されると報告がありました。先進的に取り組んでいた所はさらに支援体系が開発・整備され、新たに取り組んでいる所も各地域の特色を生かしながら独自の支援体系を構築または模索しているようです。全国的な動向や先進的な機関での取組等は、なかなか知る機会が少ないことと思えます。興味のある方は来年参加してみられてはいかがでしょうか。

## ■地域連携部相談室 阿部

研修会に参加させて頂き「高次脳機能障害者への対応の実際について」高次脳機能障害の精神症状との関連より「を報告致します。

高次脳機能障害への対応としては、精神症状や社会的行動障害の予防、あるいは改善が求められます。記憶や遂行機能の代償手段として、メモや携帯電話などの使用、ポラロイドカメラで診察場面を撮影し、後に参照するなどの取り組みが紹介されました。メモや写真を参照することで本人や家族に対して、障害に対する気付きの促しや情報の混乱を避ける目的があるそうです。さらに家族間での争いを避けるためのツールとしても用いられるそうです。

また、高次脳機能障害と精神症状（不安、情動障害）の関係についても述べられていました。退院後に就労し、日常生活以上の注意力の持続が求められ、無理をした結果、めまいや頭重感などの身体症状が生じ、さらなる悪循環や幻聴、幻覚などの精神症状を引き起こすそうです。治療のためには、長期にわたる休職や薬物療法が必要であり、無理をしないような予防策が重要であるとのことでした。

そのほかの取り組みとして、埼玉県総合リハビリテーションセンターでの健康増進施設の取り組みが紹介されました。健康増進施設では集団での体育活动によりコミュニケーション能力や体力、障害に対する認識の向上などを目指しています。私も集団での体育活动に関わった経験がありますが、障害の程度に個人差があるため課題内容の設定に難しさを感じました。埼玉県総合リハビリテーションセンターでは、他職種（看護師、臨床心理士、理学療法士など）で課題内容の設定が行われており、多数の視点から利用者を捉え、課題を検討することができると考えられます。

今後、このような取り組みを参考にし、高次脳機能障害者のリハビリテーションに理学療法士としてどのような関わり方が必要かを検討し、実践していきたいと考えます。

千葉リハ PT 太田

プロジェクト班だより

成人高次脳リハビリテーションプログラム（以後、成人リハビリテーションと表記）では、

① 受傷、発症からの時期を問わず、必要な支援を受けるための入り口としての診断を、的確に行える診療および評価の体制を確立する。

② 多職種によるケース会議と、必要に応じた外部の関係機関とのケア会議等により、必要な介入と支援を提供する体制を構築する。

③ 医療施設における具体的な臨床業務の整理を通して、高次脳機能障害に対するリハビリテーションプログラムの体系化を進める。

④ 当事者にとっての身近な支援者である家族に対し、早い時期から高次脳機能障害について学習する機会と家族同士の交流の機会を提供しながら、家族を支援する体制を整える。

これら4つの目的を持って取組んでいます。メンバーの職種は医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、視能訓練士、看護師、ソーシャルワーカーで、月1回定例の会議を実施して、以下5つのような取り組み課題について検討しております。

- ① 実績データや評価結果のデータベース化
- ② 救急医療センターとの脳外傷ファイル（成人・小児）の運用

③ 各種訓練プログラムの検討と実施結果の確認

(ア) 高次脳グループ訓練  
・入院/外来から 社会的リハ・職業的リハへの橋渡し

(イ) 記憶の代償手段の適用対象と方法  
・メモリーノートによる入院患者のスケジュール管理の評価訓練  
・退院後のフォローアップ

(ウ) 社会的行動障害の評価  
・入院/外来での評価項目の検討  
④ 自動車運転再開に関する評価方法の確立と支援プログラムの検討

(ア) 運転免許センター・自動車講習所との連携  
(イ) 神経心理学的検査と実地評価の実施結果による検討

⑤ 職員研修プログラムの体系化

会議での検討結果を提案として、現場の患者サービスに生かすことが何より重要と考えながら、発信することを心がけながら、取り組んでいます。センターの中だけでなく、我々の取組を少しでも皆様に伝えていけるような工夫もこれから重要なこととなると思います。

（成人高次脳 大塚）



高次脳機能障害者支援コーディネーター懇親会



in 奈良

「全国脳外傷者の会全国大会 2010in なら」の初日の夜、上記懇親会が開催されました。全国のコーディネーターとの顔合わせや情報交換が主な目的とした会で、全国から40名程の参加でした。他県での支援活動の実情に触れ、明日からのエネルギーをもらいました。各地域の特色や課題などを出し合って情報交換をし、盛況のうちに終了しました。

地域連携部 阿部

■高次脳機能障害支援ネットワーク（支援拠点機関）担当者会議報告

現在、千葉県支援拠点機関として千葉リハビリテーションセンター、地域支援拠点機関として旭神経内科リハビリテーション病院と亀田リハビリテーション病院が指定されています。

平成22年7月8日、千葉県、千葉リハビリテーションセンター、旭神経内科リハビリテーション病院、亀田リハビリテーション病院と高次脳機能障害支援ネットワーク担当者会議を開催しました。

その会議内容の概要は次のとおりです。今までは、千葉リハビリテーションセンターで相談支援体制連携調整委員会を開催してきましたが、今後、県主催による「千葉県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡協議会」（以下「協議会」という。）という名称案で開催することになります。なお、協議会の構成員については検討中ですが、協議会の下部組織としてワーキンググループのようなものをつくっていききたいという案が出されました。

また、千葉県のホームページに高次脳機能障害についての案内を掲載し、各支援拠点機関へもリンクできるように整備することで検討しました。

地域連携部 米元





印旛障害者相談センターの相談員のみなさんと共同で地域生活支援をいたしました。その  
 中で、当センター専任利用後、「いんば学舎」に通所していらっしゃる方々について  
 相談を受けたのは平成19年です。Kさんの個別支援を事業所の「いんば学舎」と共  
 に勉強会という形で開始して平成21年度まで継続しました。勉強会を終了するにあ  
 たって、受入施設の「いんば学舎」とともに支援をしてきた「印旛障害者相談センタ  
 ー」及びKさんの「家族」感想文をいただきました。

## いんば学舎

平成20年度より約2年間に渡って、千葉県千葉リハビリテ  
 ションセンターの太田さん、森戸さんをアドバイザーとして、  
 いんば学舎・松虫に通う高次脳機能障害を持つメンバーについて  
 2カ月に1度のペースで学習会を行いました。

保護者、いんば学舎・松虫において生活を共にする職員、家事  
 援助や移動支援に関わりのある地域生活支援センターの職員の参  
 加のもと、会議の際には太田さん、森戸さんには様々な相談をさ  
 せていただきました。

様々な話題について議題があがったのですが、最初は、就職を  
 したいという本人、保護者の希望を叶えられないかということ  
 を目標に据えてスタートしました。とはいっても、当時はうまくコ  
 ミュニケーションを図ることが難しく、どうしたら本人がキレな  
 いか、ということにほとんど気が取られていたように思います。  
 その後、生活面での問題を解決できないだろうかということに  
 目標がシフトしていくのですが、作業を取り組んだシフォンケー  
 キ作りがびたりとはまり、本人に落ちつきが見られるようになり、  
 以前は自分の部屋には誰も入れさせることがなかったのにも関わ  
 らず、部屋に職員を入れて一緒に部屋の掃除をして身の回りがき  
 れいになり、生活が快適になり、ストレスが軽減され、最終的に  
 は自分で生き方を選択できるように支援することができないだろ  
 うか、というようなところで話が進みました。当初、キレるの  
 を恐れて当らず障らずというような接し方をしていた時の状況か  
 らは想像できない変化であったと思います。その要因は、保護者  
 の方の協力、支援者の本人に対する理解と実践、そして、太田  
 さん、森戸さんから頂いた惜しみのないアドバイスがあつたから  
 に他ならないと思います。改めて、ご多忙にも関わらず遠いところ  
 まで足を運んで頂き、貴重な意見を頂けましたことに感謝申  
 上げます。ありがとうございました。

いんば学舎 河村 洋平

## いんば学舎 勉強会報告



## 印旛障害者相談センター

私が初めて「高次脳機能障害」の方と接したのはKさんでした。高次脳機能障害  
 のことは一応聞いたことがある程度だったので、いざ本人を目の前にすると少  
 し緊張したことを思い出します。その時はヘルパーとしてKさんとプールとお風呂  
 と食事に行くこと。当時、知的障害の方の外出が中心だったので、Kさんは非  
 常に手がかからないというか、話もできるし、自分で着替えられるし、自分で食べ  
 られるし、介助といへば階段くらいでしたので、本人の印象は歩行が困難であるこ  
 と以外は、自分で何でもできる意気だのいいに「ちゃん」というものでした。

そして昨年度、相談員になった私にKさんの高次脳機能障害についての勉強会が  
 開かれていたと聞かされて、意外な感じがしました。そして出席してみるとさらに  
 意外なことが：Kさんの高次脳機能障害からくる問題行動が通所施設から家庭か  
 ら「これでもかというくらい出ていました。その問題を千葉リハの太田さんを中心  
 に、親御さん、施設職員さんが少しずつ解決しようと話あつていました。ひとつ  
 解決したと思いきや、次の会議にはまた新しい問題がでたりして、高次脳機能障害  
 の大変さ、人をひとり理解して支援することの大変さがひしひしと感ぜられまし  
 た。

この勉強会を通して、本人や家族、時にはヘルパーさんや施設から問題を吸い上  
 げること、それぞれが持った障害の理解、様々な視点や様々な方向からのアプロ  
 ーチ、それらを受けての総合的な支援体制の確立が求められていると学びました。今  
 後にも生かしていきたいと思えます。この場をかりてお礼を申し上げます。  
 ありがとうございます。

## 家族

印旛障害者相談センター 緬羅中生

支援計画に対して、実はあまり期待していませんでした。突然の労災事故、生涯  
 普通の生活ができないのでは。本当に絶望的でした。病院や施設を経由して千葉リ  
 ハにたどり着き、体の機能は向上。しかし高次脳障害、何か憶えようとするでもな  
 く時間がむなしく過ぎていくばかり。親は何をしらいいのかわからず、何を要求して  
 いるのかわからず、そんなことばかり考えていました。それがいんば学舎に通所するよ  
 うになって、農作業を手伝い、友達感覚で接して下さる職員さんと一緒に生活するこ  
 とで徐々に自分をとりもどして来たようでした。しかしそれ以上のもは何も変り  
 ませんでした。このまま一生を終わるのか悲観的に思えたのですが、支援計画が始  
 まり定期的な会議で支援の方法を話し合い、実行することに息子は変わってきました。  
 そばを茹でる。洗濯物を干す。日常的な家事を手伝おうとするなど。また重たいも  
 のを持つなどの人への気遣い。あんなに切れやすかったのにほとんどありません。  
 三年間の支援計画でこんなに変るとは想像すら出来ませんでした。ここまでくると  
 もう一段のレベルアップが必要。そんな気持ちにさせるほど劇的な進歩があつたの  
 です。千葉リハの太田先生、学舎の新井さん、宮本さん他職員の皆様には心から感謝  
 申し上げます。

こ〜じの掲示板ではご意見、ご感想、情報をお待ちしております！お送り頂いたもの  
 の掲示板に役立てていきたいと思っております。kouji@chiba-reha.jp

# 地域活動支援センターまんでん

## 地域活動支援センターて何？

障害者自立支援法に基好きづき、各市町村が行う地域生活支援事業の一つで、障がいをお持ちの方が、地域で生活していくための相談・支援を行う場所です。

地域活動支援センターでは、それぞれの取り組みをしています。

家から出るきっかけづくりの場所・話ができる場所・悩みが言える場所として、利用する方がどのように過ごすかを選ぶことができます。家から一步踏み出し、社会参加をする場所、それが地域活動支援センターです。

## まんでん

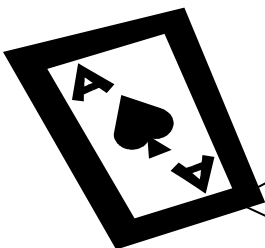
5月6日にオープンした地域活支援センターです。高次脳機能障害の方が多く参加されています。

家を「行ってきます」と出て、「ただいま」と笑顔で帰る、そんな社会参加出来る場所です。フレイタイムでは集中力のいる熟語カード・百人一首・トランプ等のカードゲーム、また散歩と称して、ビックカメラ・ドンキホーテ・CDショー等利用者の方が行って見たい所に出かけています。利用者さんは「世界が広がる」と言っています、歩き疲れても笑顔いっぱいです。

不定期で調理・郊外学習をおこなっています。……………

# まんでんニュース

- ★ 利用者さんと柏の葉ららぽーとへ行きランチをしました。会計は各自の支払いでレシートを貰いお財布の中へ（うれ～～し～）。
- ★ お弁当を購入するために某デパートへ、120分の散歩です・お弁当選びは20分位・外が見えるエレベーターで14階まで行き柏駅周辺を眺めて帰路につきました。世界が広がる～～と、疲れていても笑顔でした。
- ★ ペットショップに行ってきました。かわいい子犬がいて、みなさん優しい顔をしていました。今話題になっているクッキー・ケーキ等が販売されていました。値段をみてビックリ・ペットのキャリーカーをみてビックリ、人間よりお金が掛かるとビックリが止まりませんでした。



高次脳機能障害、まだまだ市民権を得て無い障害ですが、当事者・家族・支える人たちが大きな声を上げて地域で活動していきたいと考えています。是非まんでんに足を運んで下さい

場所：千葉県柏市柏  
5-2-17

電話：04-7162-5933

地域活動支援センター  
まんでん

■高次脳機能障害者の方の「日中活動の場」として、新しくできた地域活動支援センターの紹介です



こちらでは、障害に焦点をあてた中での生活をまめ知識として掲載していきます

今回は精神障害者保健福祉手帳と自立支援医療の更新手続きについてです。

精神障害者保健福祉手帳の更新手続き：2年に1度

自立支援医療の更新手続き：1年に1度

平成22年4月からの変更により

自立支援医療（精神）の診断書提出が2年に1度

自立支援医療受給者証と精神障害者保健福祉手帳の有効期限終了日をあわせることができます。（有効期間を短縮できるのは、自立支援医療受給者証です。）

有効期間終了日が同じになることで2年に一度、同時申請ができるようになります。

これらの手続きは、有効期限終了日の3カ月前から行うことができます。

自立支援医療の診断書の提出が「2年に1度」となるのは、更新申請の方の場合のみ。↓有効期限を過ぎてからの再開申請の場合は診断書が必要となりますのでご注意ください。

福祉サービスなど申請や更新はそれぞれに窓口が異なったり、手続き方法が違ったりして面倒に感じてしまわれるかもしれませんが、

- ① 情報キャッチ
- ② 相談（担当窓口・病院ソーシャルワーカー等）
- ③ 手続き（申請）
- ④ 決定
- ⑤ 活用（申請サービスに該当）

と「該当するサービスは上手に活用」をお勧めします。情報キャッチは、お住まいの市区町村のホームページや福祉制度の冊子などのほか、「当事者・家族会」への参加も情報を得られる場となります。

相談室 ソーシャルワーカー 森戸崇行

## インフォメーション・おしらせ *information*

### 第7回高次脳機能障害リハビリテーション講習会

日時■2011年1月15日(土)未定  
 会場■千葉市文化センター  
 〒260-0013 千葉市中央区中央2-5-1  
 内容■未定  
 問合せ■千葉県千葉リハビリテーションセンター地域連携部  
 Tel 043-291-1831(代)内 183

### 第34回日本高次脳機能障害学会 (旧 日本失語症学会) 学術総会

日時■2010年11月18日(木)・19日(金)  
 会場■大宮ソニックシティ (埼玉)  
 問合せ■国立障害者リハビリテーションセンター病院 臨床研究開発部  
 Tel 04-2995-3100(代)内 3026 Fax 04-2995-3132  
 ホームページ <http://jshbd34.umin.jp/>

### ◆ 編集後記 ◆



■6月12日、東京スカイツリーは398mの高さになっていて展望台部分の工事が始まっています。下から見上げるとさすがに高い。これからさらに、200m以上高くなると思うとワクワクします。イラストなどで完成型のイメージを見たことのある人は、これからどんな風に見えるのか、この先どんな形になるのだろうか?と興味を持ってほしい。また、何を作っているのか知らない人が見たら興味以上に「何を作っているのか」と不安をもつのではないだろうか。

スカイツリーはイメージ通りに工事がすすみますが、ふだんの生活は自分のイメージ通りにすすまないものです。全部がイメージどおりに事が展開するのも恐ろしい気がしますが、先がまったくわからないのはさらに不安になることではないでしょうか。今は、遠くから下から見るスカイツリー。完成後、上からの景色がどんなものか楽しみです。ね。なんて期待して行く計画をしようと、その日は雨で周りが見えなかつたりして・・・(M)

■東京スカイツリー、7月14日で着工2年。昨日現在の高さは、398m。Mさんの後記にある1カ月前と高さが変化していませんね。というのも、第一展望台の部分(写真でいう先の丸い所)の工事が大変なようです。日本では600m級の構造物というものが無く、スカイツリーを建設する時に特に風に耐えられるような構造にするために、風船(気球)を上空に飛ばして風の流れなどを研究・調査をしたそうです。工事の人達は、毎日風との戦い。完成後の高さは634m。上空では84mの風が吹いているそうです。84mの風ってどのくらい?ええーっ!伊勢湾台風並みの風速?!!って大丈夫なの。安心ください。千五百年に一度の暴風が吹いても耐えられる構造になっているそうです。(Y)